

1面より



View

ヤブシタ（本社・札幌市）は、空調機室外機用背面パネル「デザインウォール」を展開している。室外機の背面側に取り付けることで、広告スペースや室外機の目隠し対策として活用できる（画像は屋上緑化に合わせたデザインのイメージ。同社提供）。無骨な印象を与えがちな室外機だが、単に隠すのではなく、逆に積極的に活用し、ユーザーの要望を実現するスペースとした点が新しい。また防音機能も備えており、視覚対策と同時に騒音対策も図ることができる。（5面に関連記事）

5面より

ヤブシタ

室外機を広告スペースに

新発想の「デザインウォール」

防雪フード等の冷熱システム関連部材の製造・設計を手掛けるヤブシタ（社長＝森忠裕氏、本社・札幌市中央区）は、広告スペース等として活用できる、新発想の空調機室外機用背面パネル「デザインウォール」の拡販に注力している。ビル用マルチエコノム室外機を中心に対応する。（1面参照）デザインウォールは、シート貼りでデザインを施したパネルを、室外機背面に取り付けるもの。室外機を広告塔として活用したり、建物外観に合わせたデザインで室外機を覆うことで視覚的な対策ともなる。現在、ファーストフードチェーン店やショッピングモールで

樹脂製吸音材「ミッドシン」



は広告塔として、保育園や病院、ビル等では室外機の目隠し対策として、設計事務所等から引き合いがあるという。また、同製品は防音機能も併せ持つ。パネルの裏面には、音を振動に変えて吸音する樹脂製吸音材「ミッドシン」を採用しており、騒音を約3デシベル低減する。またミッドシンは、グラスウール用の防雪フード、防雪ネットだ。同製品の特長は気流解析技術を用いた設計にある。モジュール連結設置時、吹出側にフードを取り付けた場合にも十分な風量が排出できる設計であり、圧力損失20%以下を実現している。こうした気流解析技術は「サンシェード」でも活用が進む。同製品は室外機間にメッシュシートを取り付け、排気側から出た空気が吸気側へ循環してしまいうちを防止するキットを防ぐもの。同製品の使用時には吸込スペース確保のため、室外機下部に高上げが必要となるが、現在同社では、気流解析技術を用い、汎用的な基準作成に取り組んでいる。同社社長の森忠裕氏は「当社は『気流を制する者が屋上を制する』と考えている」と話す。その言葉通り同社では、各製品とも気流解析技術を用いた最適な設置方法の提案を行っている。こうしたことが安心材料となり、近年、ゼネコンや設計事務所からの評価も高まっている。